

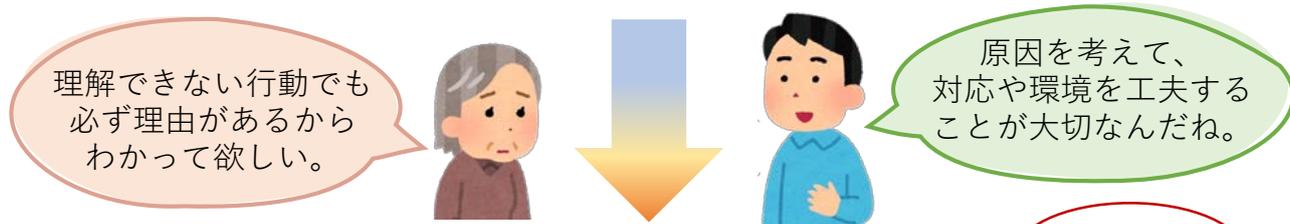
● 認知症の症状

認知症の症状は大きく「中核症状」と「行動・心理症状」の2つに分けることができます。

中核症状 治りにくい

脳の細胞が壊れ、その細胞が担っていた機能が失われることにより直接起こる症状。

記憶障害 さっき聞いたことが思い出せない 覚えていたはずの記憶が失われる	実行機能障害 前もって計画を立てることができない 家電や自販機などが使いこなせない
見当識障害 時間・季節・場所等が分からなくなる 道順などが分からなくなる	理解・判断力の障害 考えるスピードが遅くなる いつもと違うことで混乱しやすくなる



主な行動・心理症状 (BPSD) 改善できる

「中核症状」により生活上の困難にうまく適応できない場合に、本人の性格、環境、身体状況が加わって起こる症状。

幻覚 (幻視・幻聴) 実在しない音や声が聞こえる幻聴や、実在しないものが見える幻視など	妄想 ものを盗られたと訴える等、現実にはあり得ないことを真実と信じ込む
徘徊 記憶障害などの要因により歩き回る	不安・焦燥 不安になり、日常のささいなことを心配する
うつ状態 気分が沈む 何に対しても興味を示さない	不穏・興奮 落ち着かない イライラしやすい

出典：全国キャラバン・メイト連絡協議会「認知症を学び地域で支えよう」